【字引】辞書または、字書のこと。例―と首っ引きで原書を読む。
【字母】①ことばの音をつづるときに、材料として用いる一つ一つの文字。また、言語の音の単位、一つ一つに当たる文字。②活字の鋳型のもとになる文字。母型。
【字幕】映画やテレビで、画面に文字で映し出す題名・配役名・説明文・せりふなど。スーパーインポーズ。テロップ。
【字林】漢字を集めて解説した書物。字典。字書。
●活字・漢字・国字・誤字・習字・十字・数字・脱字・点字・名字・文字

子 3
【存】
6画 3424 5B58 教6 音 ソン漢 ゾン呉 訓 あ-る
筆順 一 ナ ナ 冇 存 存
なりたち [会意]「子(=こ)」と「在(=みまう)」の省略体とから成る。たずね見舞う。
意味 ❶見舞う。安否を問う。いたわる。例存問(=たずねて、見舞うこと)。❷ある。いる。生きている。例存在。存亡。生存。❸たもつ。そのままの状態にしておく。例温存。保存。❹思う。なつかしむ。留意する。例存外。存念。所存。
難読 命存らえる
人名 あきら・あり・すすむ・たもつ・つぎ・なが・のぶ・のり・まさ・やす・やすし
【存外】(形動ナ・副) 思いのほか。予想していた以上であるようす。案外。例―手間どる。―なことをしてしまう。―うまくいった。
【存在】(名・する) ①あること。いること。例―を認めない。神の―を信じる。②あるはたらきや価値を持ってそこにいること、または、あること。また、その人や事物。例貴重な―。
【存在感】その人がそこにいるだけで感じられる重みや安心感。例―のある人。
【存続】(名・する) 存在しつづけること。なくならずにつづいていくこと。
【存置】(名・する) 制度や組織などをなくさずにそのまま残しておくこと。対廃止。例会の―を考え直す。
【存知】(名・する) 知っていること。心得ていること。例その件については、―していない。
【存念】①つね日ごろ心に思う考え。②思い。所存。例―を述べる。ご―をうかがいたい。
【存廃】このまま残しておくことと、やめること。存続と廃止。例赤字路線の―について議論する。
【存否】①(ある物や人が)存在するかしないか、ということ。例反対者の―を考慮に入れる。②人が健在かどうか、ということ。安否。例遭難者の―の確認を急ぐ。
【存分】(形動ナ・副) じゅうぶん。思いどおり。思いきり。例思う―。―に休む。―の処置。
【存亡】のこるか、ほろびるか、ということ。存続するか滅亡するか、ということ。例危急―のとき。
【存命】(名・する) この世に生きていること。生存。例父の―中。
【存立】(名・する) 存在し成り立っていること。例国家の―を危うくする。
●異存・温存・共存・現存・生存

子 4
【孝】
7画 2507 5B5D 教6 音 コウ漢 キョウ呉
筆順 一 十 土 耂 耂 孝 孝
なりたち [会意]「老(=としより)」の省略体と「子(=こ)」とから成る。子が老人をやしなう。よく父母につかえる。
意味 ❶父母によくつかえる。例孝行。孝子。忠孝。❷祖先をあつくまつる。❸喪にふくす。
人名 あつ・あつし・たか・たかし・なり・のり・ゆき・よし
【孝行】(名・する) 父母をたいせつにし、うやまうこと。対不孝。例親―。―息子。
【孝子】①亡き親をまつるときに、自分をさしていう語。〔親に対してつつしんでいる子の意〕②父母をたいせつにし、よくつくす子。例―のほまれが高い。
【孝心】父母をたいせつにし、よくつかえようとする心。例―が篤い。
【孝▼悌】父母や目上の人によくつかえること。孝弟。例―は仁の本。
【孝は百行の本】親孝行は、人間のあらゆる行為の根本であるということ。〈孝経〉
【孝養】(「キョウヨウ」とも) (名・する) 父母をうやまい、たいせつに世話をすること。例―をつくす。

子 4
【孜】
7画 2758 5B5C 人名 音 シ漢 訓 つと-める
意味 「孜孜」は、仕事につとめ、はげむようす。
人名 あつ・あつし・ただす・つとむ

子 4
【孚】
7画 5353 5B5A 音 フ漢呉 訓 はぐく-む・やしな-う
意味 ❶たまごがかえる。たまごをかえす。はぐくむ。同孵。例孚育(=たまごをあたためる。かえす)。❷まこと。例孚信(=まこと。真実)。

子 4
【孛】
7画 5354 5B5B 音 一 ホツ漢 ボツ呉 二 ハイ漢 訓 さか-ん・ほうきぼし
意味 一 (子房がふくらむように)内にひめられた力が外にあらわれる。さかんなようす。同勃。二 ほうきぼし。彗星。例彗孛。

子 4
【斈】
7画 ➡【学】(308)

子 5
【学】
8画 1956 5B66 教1 音 カク漢 ガク呉 訓 まな-ぶ

子13 【學】16画 5360 5B78
子 4 【斈】7画 5361 6588 俗字
筆順 丶 丷 ⺍ 𭕄 ⺍ 学 学
なりたち [形声]「斈(=ならう)」と「冖(=おおわれていて、くらい)」と、音「臼(キョク→カク)」とから成る。知識の足りない者が習い、さとる。

意味 ❶教えを受ける。勉強する。研究する。まなぶ。例学者。学問。勉学。❷まなぶ場所。校舎。まなびや。例学園。学校。入学。❸組織化された知識の体系。例医学。科学。語学。
人名 あきら・おさむ・さと・さとる・さね・たか・のり・ひさ
【学位】一定の学術を修めた人にあたえられる称号。例博士・修士・学士・短期大学士などがある。―論文。
【学院】「学校」の別の言い方。また、塾などの名称につけることば。
【学園】「学校」の別の言い方。〔小学校から大学までなど、いくつかの学校や研究施設を経営する学校法人で用いられることが多い〕例―祭。
【学恩】学問や研究のうえで(師・友人・知人から)受けた恩。例―に感謝する。
【学外】学校、とくに大学の組織や敷地のそと。対学内。例―からの干渉を防ぐ。
【学業】学問をすること。また、学校の勉強。例―成績。―に励む。―をおろそかにする。
【学芸】学問と芸術。学問と技芸。例―会。
【学芸員】博物館や美術館などで、資料の整理や展示、もよおし物の企画などをおこなう資格をもった職員。
【学才】学問の才能。例―に秀でる。
【学際】〔英語 interdisciplinary の訳語〕二つ以上の学問が関係していること。二つ以上の学問分野にわたっていること。例―領域。―的研究。
【学士】①学問する人。学者。②学位の一つ。大学の学部を卒業した者にあたえられる学位。また、その学位をもつ人。例―入学(=大学を卒業した人が、さらに大学の別の学部、または別の課程にはいること)。
【学資】勉強を続けるために必要な資金。生活費もふくまれる。類学費。例―をたくわえておく。
【学事】学問や学校に関することがら。また、その事務。例―課。―報告。
【学識】学問を通じて身につけた、深い知識や見識。例―経験者。
【学舎】学問・教育の場となる建物。まなびや。学校。
【学者】①学問研究を専門にしている人。②学問を身につけた人。知識の深く豊かな人。
【学習】(名・する) 知識や技能などを学んで身につけること。とくに、学校で勉強すること。例―時間。日本語の―。
【学術】①専門的な学問。例―書。―用語。②学問と技術。例―優秀、品行方正。
【学殖】学問によって身につけた深い知識。例豊かな―に裏打ちされた意見。
【学生】学校で教育を受けている人。とくに、大学生・短大生。⇩【児童】(112ページ)・【生徒】(733ページ)
【学制】学校や教育に関する制度。例―改革。
【学績】①学問上の業績。②学業の成績。
【学籍】その学校の在学者として、正式に登録すること。例―簿。―を失う。
【学説】学問上の説。学問上の問題点について、研究の結果をまとめた理論や考え方。例新しい―を発表する。
【学窓】学問をする場所。学校。例―を巣立つ。
【学僧】①学問を積んだ僧。②仏教の教義を専門に勉強する僧。修学中の僧。
【学則】その学校の、教育上のことや管理上のことがらを定めた規則。
【学長】大学で校務をつかさどり、教職員を統率・監督する最高責任者。〔総合大学の学長を、古い習慣を守って「総長」ということもある〕
【学徒】①学生と生徒。例―動員。―出陣。②学問研究にたずさわる人。学者。例経済―。
【学童】小学校でまなぶ児童。小学生。例―保育。
【学徳】学問と徳行。学問があることと、おこないが道にかなっていること。例―兼備の聖人。
【学内】学校、とくに大学の組織や敷地のなか。校内。対学外。
【学年】①一年をひと区切りとした、学校教育の期間。例―試験。―末。②修学期間によって分けた児童や生徒・学生の段階。例―主任。第三―。
【学派】ある学問で、学説のちがいによって生じた系統。学問上の流派。例ヘーゲル―。
【学閥】同じ学校の出身者だけで自分たちにつごうよく事が運ぶように、他の人を排除するグループ。
【学費】①教科書代など勉学に必要な費用。類学資。②授業料。例―値上げ。―がかかる。
【学府】学問を志す人が集まるところ。学問の中心となるところ。学校。例最高―。
【学部】①大学で、専攻の分野によって大きく分けたそれぞれの部。例法―。②〔大学院に対して〕ふつうの四年制大学の課程。例―の学生。
【学風】①学問をするうえでの、考え方や方法についての特色。②学校の気風。校風。例自由な―。
【学報】①学術上の報告。また、その雑誌。②大学の状況を知らせるための報告。また、その報告書。
【学帽】学生や生徒がかぶるものとして、学校で指定した帽子。制帽。学生帽。
【学務】(役所などの事務の区分で)学校や教育に関する事務。例―課。
【学名】①動植物にラテン語の形でつけた、世界共通の学術上の名前。例トキの―はニッポニア・ニッポンという。②学問上の名声。例―があがる。
【学問】一 (名・する) まなぶこと。勉強をすること。また、学んで得られた体系的な知識。例―に励む。―がある。二 (名) 知識の習得、情報の分析、理論の

名言名句⑮
《他から学び、自分で考える》
学びて思わざれば則ち罔し、思いて学ばざれば則ち殆うし〈『論語』為政篇〉
「他から学んでも自分の頭で考えなければ、ほんとうに理解したことにならない、自分の頭で考えるだけで、他から学ばなければ、独善的となる危険がある」

構築などの、体系的な知的活動の総体。例―的。

【学友】同じ学校でいっしょに勉強している友人。例―会。中学以来の―。

【学用品】えんぴつ・消しゴム・ノート・かばんなど、学校で勉強するときに使うもの。

【学理】学問上の原理や理論。例―的に説明する。

【学寮】①学校の寄宿舎。②寺院に付属して設けられた僧尼のための学校。

【学力】勉強して身につけた知識や能力。例―検査。―不足。―が向上する。

【学齢】①義務教育を受ける年齢。日本では、小学校・中学校の期間。満六歳から十五歳まで。②小学校に初めてはいる年齢。満六歳。例―に達する。

【学歴】その人が、いつ、どこの学校を卒業し、何を勉強したかという経歴。例―社会。―を問わない。

【学割】「学生割引」の略。学生・生徒の鉄道運賃や劇場の入場料などを、安く割り引く制度。

【学科】〔「学問の科目」の意〕①学校での学習科目。類教科。例好きな―は数学です。②教室での講義によって学ぶ科目。例看護の―より実習のほうがおもしろい。③大学の学部を、さらに専門によって分けたもの。例社会学部情報―。文学部英文―。

【学会】同じ分野の研究者でつくった、学術研究のための団体。また、その集会。例物理―。―で発表する。

【学界】学問の世界。学者の社会。

【学監】学校で、校長を補佐し、学生・生徒の監督をする役。また、その人。

【学館】学問をするための建物。学問所。学校。

【学期】学校で、一年間を三つまたは二つに分けた、それぞれの期間。例―試験。新―。

【学究】ひたすら学問や研究にはげむ人。学者。例―肌の人。

【学級】学校で授業のために、児童・生徒を一定の人数に分けた一団。組。クラス。例―担任。―委員。

【学区】公立学校別に決められている通学区域。類校区。例―制。

【学兄】学問の社会で、同輩・友人・後輩に対して、うやまう気持ちで使うことば。〔「学問における先輩」の意で、手紙の用語として、男性どうしが使う〕

【学校】学生・生徒・児童を、教師が教育するところ。例―図書館。各種―。

【学びて思わざれば▽則ち▽罔し】
⬇名言名句⑮(309ページ)

●医学・化学・科学・漢学・共学・苦学・見学・工学・語学・国学・在学・私学・就学・進学・数学・退学・哲学・独学・入学・博学・物理学・文学・勉学・法学・夜学・洋学・力学・留学

子 5

【季】

8画 2108 5B63 教4

音 キ漢呉　訓 すえ・とき・いずくんぞ

筆順 一 二 千 禾 禾 季 季 季

たなちり [会意]「子(=こ)」と「稚チ→キ(=おさない)」の省略体とから成る。きょうだいのうちで、最もおさない子。

意味 ❶きょうだいのなかでいちばん年下の者。すえ。また、年わかい。小さい。おさない。〔きょうだいを年長の者から順に、伯(または孟)・仲・叔・季という〕例季弟(=末の弟)。❷一年を三か月ずつ春夏秋冬に分けた、それぞれの終わりの月。また、ある時代の終わり。すえ。例季春(=陰暦三月)。季世(=末の世。まっせ)。❸春夏秋冬それぞれの期間。ある一定の期間。とき。例季節。雨季。四季。

日本語での用法《キ》俳句で、句に詠みこむ四季の景物。「季語・季題・季寄せ・無季俳句」

難読 季冬　人名 とし・みのり・みのる

【季刊】(雑誌などを)年に四回、季節ごとに発行すること。また、その出版物。対日刊・週刊・月刊・年刊。

【季月】四季それぞれの、終わりの月。陰暦の、三月・六月・九月・十二月をさす。

【季語】俳句や連歌の約束ごとで、季節をあらわすためのことば。「霞」は春、「菊」は秋、など。季題。

【季候】季節によって変化する気象の状態。時候。例―がよい。温暖な―。

【季節】①一年を気候の変化にしたがって、いくつかに分けた期間。春夏秋冬、雨季・乾季など。シーズン。例若葉の―。―はずれの大雪。②あることにちょうどよい時期。また、何かが集中して起こる時期。シーズン。例苦難の―。今が―の野菜。

【季節風】毎年、季節によって決まった方向にふく風。大陸と海洋の温度の差によって生じる。日本では、夏は南東風、冬は北西風。モンスーン。

【季題】①句会などで、俳句を作る題として出される季語。②「季語」に同じ。例―をよみこむ。

【季寄せ】俳句の季語を集めた本。

●夏季・四季・秋季・春季・節季・冬季・年季

子 5

【孥】

8画 5355 5B65

音 ド漢 ヌ呉

意味 ❶子。また、妻子。同帑。例妻孥。❷やっこ。しもべ。同奴。例孥輩(=しもべたち)。

子 5

【孟】

8画 4450 5B5F 人名

音 モウ漢　訓 かしら・はじーめ・つとーむ

たなちり [形声]「子(=こ)」と、音「皿ベイ→ウモ」とから成る。いちばん上の子。

意味 ❶きょうだいのなかでいちばん年上の者。長男。長女。〔きょうだいを年長の者から順に、孟(または伯)・仲・叔・季という〕❷四季の、それぞれ最初の一か月。〔季節は、孟・仲・季の順〕例孟夏。孟月。❸大きい。たけだけしい。同猛。例高言孟行。❹戦国時代の儒家の思想家、孟子のこと。例孟母三遷。孔孟。

人名 おさ・たかし・たけ・たけし・たける・つとむ・とも・ながはじむ・はじめ・はる・もと

【孟夏】夏の初めの月。陰暦四月。初夏。

【孟月】四季それぞれの最初の月。陰暦の、正月・四月・七月・十月をさす。

【孟▼浩然】唐代の詩人。名は浩、浩然は字。一説に、名も字も浩然。自然を題材にした詩にすぐれ、田園詩人と称される。詩「春暁」はとくに有名。

(六八九―七四〇)⇩漢詩を味わう❶(315ページ)

【孟子】①戦国時代の思想家。魯の鄒の人。名は軻、字は子輿。孔子の教えをつぎ、仁義にもとづいて国をおさめる王道政治を説き、性善説をとなえた。(前三七二?―前二八九?)⇩【孟母三遷】・【孟母断機】②孟子の言行をしるした書。四書の一つとしてよく読まれ、「五十歩百歩」(46ページ)「助長」(159ページ)などの故事はひろく親しまれている。

【孟秋】秋の初めの月。陰暦七月。初秋。

【孟春】春の初めの月。陰暦一月。初春。

【孟宗】①三国時代、呉の人。病床の老母の求めに応じて冬にタケノコをさがし歩いたところ、その孝心の厚さゆえに、雪の中からタケノコが生えてきた、という故事で有名。〈二十四孝〉②「孟宗竹」に同じ。

【孟宗竹】タケの一種。タケのなかでは最大の品種で、タケノコを食用とする。

【孟冬】冬の初めの月。陰暦十月。初冬。

【孟母三遷】子供の教育には環境がたいせつであるということ。三遷。三遷の教え。

故事のはなし　戦国時代の思想家、孟子の家は墓地の近くにあったが、幼い孟子が葬式のまねばかりして遊ぶので、母は、市場の近くにひっこした。すると孟子は商売のまねをするので、さらに学校の近くへひっこした。孟子は礼儀作法のまねをするようになり、母は安心してここに住まいを定めた。〈列女伝〉

【孟母断機】学問やものごとをとちゅうでやめてしまってはいけない、といういましめ。断機の戒め。

故事のはなし　戦国時代の思想家、孟子は若いころ、学問をするために家を出ていたが、中途で家に帰ってきた。孟子の母が学問の進みぐあいを尋ねたところ、孟子は「以前と変わりません」と答えた。すると母は、ちょうど織っていた布を刀で断ち切り、「お前が中途で学問をやめることは、ちょうど私がこの織りかけの布を断ち切るようなものだ」といましめた。その後孟子は、昼も夜も勉学に励み、大学者となった。〈列女伝〉

子 6

【孩】

9画 5356 5B69

音 カイ漢 ガイ呉　訓 ちのみご

意味 赤んぼう。ちのみご。また、赤んぼうの笑うようす。〔現代中国語で「孩子」は子供をいう〕例孩嬰(=みどりご)。孩児。孩提。

【孩児】幼い子。みどりご。ちのみご。

【孩提】二、三歳ほどの幼児。

子 6

【孤】

9画 2441 5B64 常用

音 コ漢呉　訓 ひとーり

筆順 ㇇ 了 子 孑 孑 孤 孤 孤 孤

たなちり [形声]「子(=こ)」と、音「瓜カ→コ」とから成る。幼くして父をなくした子。

意味 ❶父または両親をなくした子。みなしご。例孤児。六尺之孤(=父をなくして幼少で即位した君主。六尺は昔の中国で、約一三五センチメートル)。❷なかまがなくひとりぼっちでいるようす。ひとつ。ひとり。例孤高。孤独。孤立無援。❸諸侯が自分をへりくだっていうことば。わたし。例孤之有孔明、猶魚之有水也(=わたしに孔明がいてくれるのは、ちょうど魚に水があるようなものだ)。〈十八史略〉

難読 孤(みなしご)

人名 かず・とも

【孤雲】一つだけ他とはなれてうかんでいる雲。ひとりぼっちの者のたとえ。

【孤影】ひとりぼっちのさびしげな姿。例―悄然として。

【孤▼雁】群れからはなれて、ただ一羽だけでいるガン。

【孤軍】助けが得られないで、孤立している軍隊。

【孤軍奮闘】(名・する)①援軍もなく、孤立した少数でよく戦うこと。例―囲みを破って帰る。②たった一人で、いっしょうけんめい努力すること。

【孤▼閨】夫が長く不在で、妻が独りねること。また、その部屋。例―を守る。

【孤月】空にぽつんとうかび、ものさびしげに見える月。

【孤剣】①たった一本の剣。②一本の剣しか身に帯びていないこと。また、その人。例―をたのみ、敵中に入る。

【孤高】(名・形動ダ)低俗な人々からはなれて、ただ独り、けだかさを保っていること。例―の士。―を持する。

【孤児】両親に死に別れた子。みなしご。例戦災―。

【孤舟】(広い水面にうかぶ)一艘の小さなふね。

【孤愁】ただ独り悲しいもの思いにしずむこと。

【孤城】①遠く離れたところにある町や城。②孤立して援軍のない町や城。

【孤城落日】〔孤立して援軍のない城にさびしく射している夕日〕勢いがおとろえて、心細げなようすのたとえ。

【孤絶】ひとりだけ取り残され、つながりがなくなること。

【孤灯】ただ一つさびしくともっているともしび。

【孤島】他の島や陸地から、ぽつんと一つだけ遠くはな

れている島。はなれじま。類離島。例絶海の―。陸の―(=極端に交通や通信が不便な土地)。

【孤独】コドク (名・形動ナ)身寄りや友人もなく)ひとりぼっちであること。また、心のかよう相手がいないこと。例―な生活。―感。

【孤帆】コハン ただ一そうの帆かけ舟。例―の遠影碧空に尽く(=ただ一そうの帆かけ舟は青空のかなたに消える)。〈李白・黄鶴楼送孟浩然之広陵(コウカクロウにてモウコウネンのコウリョウにゆくをおくる)〉⇩漢詩を味わう③(563ページ)

【孤立】コリツ (名・する)行動をともにするなかまや助けがなくて、ひとりだけであること。例―感を深める。

【孤立無援】コリツムエン なかまや助けがまったくなく、たったひとりであること。例―で奮戦する。

【孤塁】コルイ 味方からはなれて敵の中にたった一つ残っているとりで。例ひとり―を守る。

子 7

【孫】 10画 3425 5B6B 教4 訓音 ソン漢呉 まご

筆順 ㇇ 了 子 孑 孖 孫 孫

たなちり [会意]「系(=つづく)」と「子(=こ)」とから成る。子につづく子。

意味 ❶㋐子の子。まご。例外孫ガイソン。嫡孫チャクソン。㋑まご以下の血すじを引いて生まれるもの。例王孫オウソン(=王・貴族の子孫)。子孫シソン。❷姓の一つ。例孫権ケンソン。孫子ソンシ。

難読 王孫さるさ 人名 さね・そ・ただ・ひこ・ひろ

【孫権】ソンケン 三国時代の呉の君主。蜀の劉備とともに魏の曹操の南進を赤壁で阻止し、江南に勢力を確立して皇帝に即位した。(一八二―二五二)

【孫康】ソンコウ 晋代の政治家。陝西省の人。若いころは貧乏で、ともし火の油を買うことができず、冬の夜に雪明かりで勉強したという。⇩【蛍雪の功】(954ページ)

【孫子】ソンシ ①春秋時代の兵法家。名は武。呉王の闔閭につかえ、戦功をたてた。戦法についてすぐれた論をもち、兵法の祖とあおがれる。兵法書『孫子』は、その著とされる。例―の兵法。②戦国時代の兵法家、孫臏(「臏」は、足切りの刑の意)のこと。魏の龐涓の中傷により、両足を切られたが、斉の軍師となり、龐涓を敗死させた。

【孫文】ソンブン 中国の革命家・政治家。清朝をたおす革命運動に加わり、三民主義をとなえる。辛亥革命で中華民国の臨時大総統に就任したが、まもなく袁世凱に譲った。数々の事績がある。(一八六六―一九二五)

【孫弟子】まごデシ (直接教えを受けた弟子でなく)その先生の弟子の弟子。

【孫引き】まごびき ほかの本に引用されている文章や学説を、もとの本で確認しないで、そのまま引用すること。

【孫娘】まごむすめ 自分の子の娘。孫にあたる娘。

●初孫ういまご・はつまご・外孫ガイソン・玄孫ゲンソン・やしゃご・子子孫孫シシソンソン・子孫シソン・曽孫ソウソン・ひまご・ひこ・ひいまご・末孫マッソン・バッソン・令孫レイソン

子 8

【孰】 11画 5357 5B70 訓音 シュク漢 ジュク呉 いず-れ・たれ

意味 ❶じゅうぶんに…する。同熟ジュク。例孰視ジュクシ。孰成ジュクセイ。❷〔助字〕㋐「たれ(か)」と読み、疑問・反語をあらわす。例孰能無レ惑(たれかよくまどいなからん)(=どうして疑問をもたない者があろうか)。㋑「いずれ(か)」と読み、どちらが…か、の意。選択の疑問をあらわす。例礼与レ食孰重(レイとショクといずれかおもき)(=礼と食とではどちらが重大か)。〈孟子〉

子 9

【孱】 12画 5403 5B71 訓音 サン漢 セン漢 つたな-い・よわ-い

意味 よわよわしい。よわい。例孱弱ジャク(=かよわい)。

子 9

【孳】 12画 5358 5B73 訓音 シ漢 ジ呉 う-む・つと-める・つる-む

意味 ❶生まれる。うむ。例孳生ジセイ。❷ふえる。ふやす。

子 11

【孵】 14画 5359 5B75 訓音 フ漢 かえ-す・かえ-る

意味 たまごをかえす。たまごがかえる。例孵化カ。孵卵ラン。

【孵化】フカ (名・する)たまごがかえること。たまごからひなや子が産まれ出ること。

【孵卵】フラン (名・する)たまごがかえること。たまごをかえすこと。例―器(=人工的に、動物のたまごをかえす装置)。

子13

【學】 16画 ⬇【学】ガク(308)

子 14

【孺】 17画 5362 5B7A 訓音 ジュ漢 ちのみご・おさな-い

意味 ❶おさない子。ちのみご。例孺嬰エイ(=みどりご)。孺子ジュシ。婦孺フジュ(=婦人と子供)。❷したう。つきしたがう。

【孺子】ジュシ ①子供。幼児。②一人前になっていない若者を見くだしていうことば。小僧。若造。例―教うべし(=この小僧はみこみがある)。〈史記〉

40 3画 宀 うかんむり部

屋根におおわれた家の形をあらわす。片仮名の「ウ」に形が似ている冠(=漢字の上がわの部分)であることから「うかんむり」という。「宀」をもとにしてできている漢字を集めた。

0 宀 2 它 宂 3 安 宇 守 宅 完 4 宏 宋 宍 宕 宗 宙 定 宛 宜 官 実 宝 5 宓 宜 宣 宥 宦 宮 6 客 宮 宴 宰 宵 容 家 害 宸 宿 寂 寄 7 宰 宵 宴 8 寅 寇 寄 寂 宿 密 9 寒 寓 寐 寔 寛 寝 寡 富 10 寛 寝 寢 11 寡 寥 寧 寨 察 實 寤 12 寮 審 寫 寬 寯 13 寰 14 寧 16 寵 17 寶

この部首に所属しない漢字

穴→穴807 字→子307 牢→牛707 究→穴807 空→穴807 突→穴808 窃→穴809 窄→穴809

子部 7―14画 ● 孫 孰 孱 孳 孵 學 孺 宀部

案→木573 窪→穴810 賓→貝1024 窓→穴809 蜜→虫959 憲→心449 窒→穴810 窮→穴810 賽→貝1025 塞→土258 窯→穴811 蹇→足1034

宀 0

【宀】 3画 5363 5B80 音 ベン漢 メン呉

漢字に親しむ 10 「雲孫ウンソン」ってどんな孫まご?

お父さんのお父さんはおじいさん、そのお父さんは曽ひいおじいさん、その上は?――ちょっと出てきませんね。子供のほうでやってみましょう。子供の子供は孫、その子は曽孫ひまご、その子はやしゃご、その子は?――これもこのあたりまででかこんなものでなく、実に完備しています。本人を中心に上下に列挙してみましょう。

高祖―曽祖父ソウソフ―祖父―父―本人―子―孫―曽孫ソウソン(ひまご)―玄孫ゲンソン(やしゃご)―来孫ライソン―昆孫コンソン―仍孫ジョウソン―雲孫ウンソン(つるのこ)

中国の「孝」の観念や「家えい」の思想というものは日本よりも徹底テッテイしていて、血縁エンケツの子孫を絶やすことは絶対にさけるべきことと考えられていたようです。そういう考え方が先祖や子孫の名称メイショウにも反映し、こんなに何代にもわたってきちんとした呼び名がついたのだといえるでしょう。

宀 2

【它】 5画 5364 5B83 訓音 タ漢 へび

意味 ❶ヘビ。マムシ。同蛇タ。❷ほか。よそ。別の。同他タ。例它意イタ(=ふたごころ)。它人ニンタ(=ほかの人)。〔近世以後の中国語では、三人称ニンショウの事物をあらわす代名詞として用いられる〕

宀 2

【宂】 5画 ⬇【冗】ジョウ(129)

宀 3

【安】 6画 1634 5B89 教3 訓音 アン漢呉 やす-い・やす-らか・いずく-んぞ

筆順 丶 丷 宀 宀 安 安

たなちり [会意]「女(=おんな)」が「宀(=いえ)」の中にいる。おちついて、やすらか。

意味 ❶事件や心配ごとがなく、心がおだやか。やすらか。やすらぐ。やすんじる。例安心アンシン。安全アンゼン。平安ヘイアン。❷すえる。おく。おちつける。例安置アンチ。❸〔助字〕㋐「いずくにか」と読み、どこに、の意。場所について、疑問・反語をあらわす。例沛公安在(ハイコウいずくにかある)(=沛公はどこにいるか)。〈史記〉㋑「いずくんぞ」と読み、どうして、の意。理由について、疑問・反語をあらわす。例安有レ故(いずくんぞゆえある)(=どうして知り合いなのか)。

日本語での用法 □一《あ》「あ」の音にあてる万葉がな。「安積山あさかやま・安達あだち・安倍あべ」□二《やすい》①品物の値段が低い。「安価アンカ」②たやすい。てがるな。「安易イアン・安直アンチョク」

難読 安孫子あびこ(=地名・姓)

人名 さだ・しず・やすし

【安芸】あき 旧国名の一つ。今の広島県の西部にあたる。芸州ゲイシュウ。

【安房】あわ 旧国名の一つ。今の千葉県南部にあたる。房州ボウシュウ。

【安易】アンイ (名・形動ナ)①たやすいこと。例―な問題。②いいかげんなこと。安直アンチョク。例―な考え。

【安逸】アンイツ (名・形動ナ)安心して楽しむこと。(仕事をせず)のんびり暮らすこと。例―をむさぼる。表記 旧安▼佚

【安価】アンカ (名・形動ナ)①値段がやすいこと。類廉価レンカ。対高価。例―で仕入れる。②やすっぽいこと。例―な同情を買う。

【安▼臥】アンガ (名・する)楽な姿勢で横になること。例―するに足る住まい。

【安閑】アンカン (形動タルト)①静かでのんびりしたようす。例―と日をおくる。②ぼんやりしているようす。例―としている場合ではない。

【安危】アンキ 安全と危険。また、安全か危険か。例国家の―がかかっている。

【安居】アンキョ □一(名・する)①何もしないで家にいること。②現状に満足して、のんきに過ごすこと。例一日も―せず。□二アンゴ(名)〔仏〕僧ソウが夏期、三か月間外出せず、座禅ザゼンして修行ギョウすること。

【安康】アンコウ 〔「康」も、やすらかの意〕なにごともなく無事なこと。類安泰アンタイ。例国家―。

【安国】アンコク 国を平和に治めること。また、よく治まっている国。例『立正リッショウ―論アンコクロン』〔日蓮ニチレンの著作〕

【安座】アンザ (名・する)①おちついてすわること。②あぐらを組むこと。③(危急の場合なのに)何もしないでいること。例手をつかねて―している。④〔仏〕仏像を堂の中に安置すること。表記 ▽旧安▼坐

【安産】アンザン (名・する)苦しみの少ない無事な出産。対難産。例―のお守り。女児を―する。

【安住】アンジュウ (名・する)①心やすらかに、すむこと。例―の地。②現状に満足して、向上心をなくすこと。例小さな成功に―する。

【安心】アンシン □一(名・する・形動ナ)心配ごとがなくて、心がおちついていること。類安堵アンド。対心配。例―感。□二アンジン(名)〔仏〕さとりをひらくこと。信仰シンコウが身について、心が安定すること。

【安心立命】アンシンリツメイ・アンジンリュウメイ 〔仏〕信仰シンコウによって自分の運命を知り、外部のどのようなことにも心を乱されたり迷わされたりしないこと。

【安静】アンセイ (名・形動ナ)しずかにおちついていること。とくに療養リョウヨウのために、からだを動かさないでねていること。

宀部 0―3画 ● 宀 它 宂 安

例 絶対—。—にして過ごす。

【安全】アンゼン (名・形動ダ) 危なくないこと。無事。類 安泰。対 危険。例 交通—。—な方法を考える。

【安全装置】アンゼンソウチ 機械や銃砲などが、不必要な、また、危険な作動をしないようにするしかけ。

【安全弁】アンゼンベン ①ボイラー内の気圧が上がりすぎないように余分な蒸気をぬくための弁。エアポンプやエアタンクにも使う。②危険を事前に防ぐ装置や方法。例 景気の—。表記 ▽旧 安全▼瓣

【安息】アンソク (名・する) 心地よく休むこと。例 ゆっくり—する時間がほしい。

【安息日】アンソクニチ 〔「アンソクジツ」「アンソクび」とも〕仕事を休んで神につかえる日。キリスト教では日曜日、ユダヤ教では金曜日の日没から土曜日の日没までをいう。

【安打】アンダ (名・する) 野球で、ボールを打った打者が相手のエラーなどによらずに、出塁できる当たり。ヒット。例 三打数三—。

【安泰】アンタイ (名・形動ダ) 〔「泰」も、やすらかの意〕無事なこと。事故や危険、また不安や心配などのないこと。類 安康・安寧・安穏・平穏。例 国家の—。

【安宅正路】アンタクセイロ 仁と義。〔「仁は人の安宅(=やすらかな家)なり、義は人の正路(=ふむべき正しい道)なり」による〕〈孟子〉

【安置】アンチ (名・する) 仏像などを一定の場所に、すえ置くこと。例 遺体を—する。

【安着】アンチャク (名・する) 無事に到着すること。例 本日、任地に—しました。

【安直】アンチョク (名・形動ダ) 〔「直」は、値段の意〕①やすい値段。安価。例 昼は—なランチですませた。②気軽なこと。例 —な考え。

【安定】アンテイ (名・する) ①おちついていて、変化や乱れがないこと。対 変動。例 生活が—した。②もののすわりがよいこと。例 —した家具。—性を欠く。

【安▼堵】アンド (名・する) 〔「堵」は、垣の意〕①家をとりまく垣に安心して、やすらかに暮らすこと。②心配ごとがなくなり、ほっとすること。例 —の胸をなでおろす。③封建時代、将軍や領主が、家臣の領地の所有権を公認したこと。例 領地を—する。

宀部 3画 ●宇 守

【安寧】アンネイ (名・形動ダ) 〔「寧」も、やすらかの意〕異変や不安などがないこと。類 安心・安泰。例 —秩序を守る。

【安穏】アンノン (名・形動ダ) なにごともなく平和なこと。類 安泰・平穏。例 —無事な生活。

【安排】アンバイ (名・する) 配置や処置を適切にすること。例 植木の—をよくする。表記「▼按排・▼按配」とも書く。

【安否】アンピ 無事であるか、どうか。〔とくに人の身の上についていう〕例 —を気づかう。

【安眠】アンミン (名・する) 心地よくねむること。例 —を妨害する。

【安楽】アンラク (名・形動ダ) 苦痛や心配ごとがなく、心身ともに楽なこと。例 —椅子。後世—。—に暮らす。

【安楽死】アンラクシ 助かる見こみのない病人を、本人の依頼、または承諾を得て、人為的にやすらかに死なせること。また、その死。

【安▼禄山】アンロクザン 唐代の玄宗皇帝のときの武将。七五五年に乱を起こし、翌年、皇帝を称したが、やがて自分の子に殺された。(?—七五七)

【安手】やすで (名・形動ダ) 値段がやすいこと。やすくて低級なこと。例 —の品。

【安値】やすね ①やすい値段。②〔経〕株の取り引きで、その日のいちばんやすい値段。対 高値。

【安普請】やすブシン やすい費用で家を建てること。また、その家。やすっぽい建物。

【安物】やすもの 値段がやすく、品質の悪いもの。安手。例 —買いの銭失い(=安物は質が悪いので、かえって損になる)。

●慰安・公安・大安・治安・平安

宀 3

【宇】 6画 1707 5B87 教6

音 ウ 漢 呉　訓 のき・いえ

筆順 丶 丶 宀 宀 宀 宇

たなちり 〔形声〕「宀(=いえ)」と、音「于ウ」とから成る。建物の、のき。

意味 ❶やね。のき。ひさし。また、いえ。たてもの。例 宇下(=のきした)。堂宇。❷世界をおおう、大きい屋根のような天。空間的なひろがり。天地四方。例 宇宙。❸器量。度量。例 気宇。

人名 お・くに・たか・たかし・ね・ひさ・ひろ

【宇内】ウダイ 世界。天下。例 —の形勢を見る。

【宇宙】ウチュウ ①〔英語 universe の訳語〕すべての天体をふくむ空間のひろがり。とくに、地球の大気圏外。例 —空間。②〔英語 cosmos の訳語〕一定の秩序をそなえた世界。例 小—。

【宇宙船】ウチュウセン 宇宙を行き来する乗り物。

【宇宙線】ウチュウセン 宇宙から地球にたえまなく降り注ぐ、高エネルギーの放射線。

宀 3

【守】 6画 2873 5B88 教3

音 シュウ 漢 シュ・ス 呉　訓 まも-る・もり・かみ・まもり

筆順 丶 丶 宀 宀 守 守

たなちり 〔会意〕「宀(=役所でする仕事)」と「寸(=きまり)」とから成る。役所の仕事を、きまりどおりにおこなう。

意味 ❶失わないように保つ。みまもる。みはる。例 守株。守成。保守。❷他からおかされるのをふせぐ。防衛。まもり。例 守護。守備。攻守。❸地方長官。郡の長官。例 郡守。太守。

日本語での用法 一《まもり》神や仏のおまもり。「守り札・お守り」二《もり》世話をする(人)。「守役・子守・墓守・宮守」三《かみ》律令制の四等官で「国司」の第一位。長官。「国守・土佐守」

難読 守宮やもり

人名 え・おさむ・さね・たもつ・つかさ

【守衛】シュエイ 一(名・する) まもること。まもる人。二(名) 学校や官庁・会社などの警備をする人。

【守旧】シュキュウ 古いしきたりやならわしをまもり、前例にだけ従うこと。類 墨守・保守。

【守護】シュゴ 一(名・する) まもること。類 警護・警固。例 —神。二(名) 鎌倉・室町時代、警備や治安などのために、地方の国々に置かれた武士の職名。のちに強大になり、やがて守護大名となる。守護職。

漢詩を味わう①

春暁　孟浩然

春眠不レ覚エ暁ヲ
処処聞ク二啼鳥ヲ一
夜来風雨ノ声
花落ツルコト知ル多少ゾ

書き下し文

春眠暁を覚えず
処処啼鳥を聞く
夜来風雨の声
花落つること知る多少ぞ

語釈

春眠 春の夜の快いねむり。⇩【春眠】シュンミン(531ページ)
覚 気づく。⇩【覚】カク 意味❶(982ページ)
処処 あちらこちら。ここかしこ。ところどころ。⇩【処処】ショショ(134ページ)
啼鳥 鳥のなき声。⇩【啼鳥】テイチョウ②(229ページ)
夜来 ゆうべ。昨夜。「来」は助字で、意味はない。⇩【夜来】ヤライ①(274ページ)
多少 多いか、少ないか。どれほどか。「知る多少ぞ」で、「どれほどであろうか」の意味となる。⇩【多少】タショウ一(272ページ)

現代日本語訳

春の夜の快い眠りで、明け方になったのも気づかず、うつらうつらとしている
あちらこちらから鳥のなき声が聞こえてくる
ゆうべは風や雨の音がしていたが
花はどれほど落ちたであろうか

鑑賞

作者の孟浩然は、なかなか官途につけず不遇な生活を送っていたが、かえって早朝から宮仕えをする人々が味わえない鳥・風・雨・花といった自然を楽しむことができた。

解説

唐の詩人、孟浩然(310ページ)による五言絶句。第一句の句末「暁」、第二句の句末「鳥」、第四句の句末「少」が押韻している。(五言の詩では、偶数句の句末で押韻するが、ここでは第一句末も押韻している)⇩［漢詩について］(1228ページ)

【守死】シュシ（名・する）いのちがけでまもること。死を覚悟（カクゴ）しておこなうこと。類 死守。

【守▽株】シュシュ（名・する）古い習慣に従うだけで、進歩のないこと。ゆうずうのきかないこと。株（かぶ）を守る。⇩ 漢文を読む①（317ページ）

故事のはなし

昔、宋（ソウ）の国の男が畑しごとをしていると、ウサギがとんできて畑の中の切り株にぶつかって首を折って死んでしまった。これを見た男はもう一ぴきつかまえてやろうと、しごとはそっちのけにして切り株の見張りをしたが、もうウサギはあらわれず、みんなの笑い者になってしまった。〈韓非子（カンピシ）〉

【守成】シュセイ 創業者のあとを受けついで、事業の基礎（キソ）を固め、まもること。例 創業は易（やす）く—は難（かた）し。

【守勢】シュセイ ①敵の攻撃（コウゲキ）を防ぎまもること。対 攻勢（コウセイ）。例 —に立つ。②まもりの軍勢。

【守拙】シュセツ 世渡（よわた）りがへたでも、自分の生き方をまもりとおすこと。

【守戦】シュセン ①まもることと、たたかうこと。例 —両様の構え。②敵の侵入（シンニュウ）を防ぐたたかい。類 防戦。例 —に徹（テッ）する。

【守銭奴】シュセンド お金をたくわえるだけで、わずかな出費をもいやがる者。

【守秘】シュヒ（名・する）秘密を他人に知らせないこと。例 —義務（=医師や弁護士などが、職務上知った他人の秘密をまもらなければならない義務）。

【守備】シュビ 相手の攻撃（コウゲキ）にそなえて、まもること。防備。防御（ボウギョ）。対 攻撃。例 —を固める。

【▽守▽宮】やもり 有鱗目（ユウリンモク）ヤモリ科の爬虫（ハチュウ）類。トカゲに似る。夜、家のかべなどをはって、昆虫（コンチュウ）を捕食する。

●看守（カンシュ）・厳守（ゲンシュ）・攻守（コウシュ）・死守（シシュ）・順守（ジュンシュ）・遵守（ジュンシュ）・鎮守（チンジュ）・墨守（ボクシュ）・留守（ルス）

宀部 3—4画 ●宅 完

3画

宀 3

【宅】

6画 3480 5B85 教6 音 タク 漢

筆順 丶 丶 宀 宀 宀 宅

たちなり [形声]「宀（=いえ）」と、音「乇（タク）」とから成る。人が身を寄せるところ。

意味 住んでいるところ。いえ。やしき。例 宅地（タクチ）。自宅（ジタク）。住宅（ジュウタク）。

日本語での用法《タク》①妻が他人に対して、自分の夫または家を指していう。「宅（タク）に申（もう）し伝（つた）えます・ずっと宅（タク）におります」②相手や相手の住居・家庭・組織・会社などを指していう。「お宅（タク）さまでは…・お宅（タク）の近所（キンジョ）」

難読 三宅（みやけ）・安宅（あたか）（=地名・姓（セイ））・大宅（おおや）（=姓）

人名 いえ・おり・やか・やけ

【宅診】タクシン（名・する）医師が自宅で診療（シンリョウ）すること。

【宅地】タクチ 住宅を建てるための土地。例 —造成。

【宅配】タクハイ（名・する）荷物や新聞などを、あて名の人のところまで届けること。類 宅送。例 —便。

●帰宅（キタク）・在宅（ザイタク）・社宅（シャタク）・拙宅（セッタク）・尊宅（ソンタク）・邸宅（テイタク）・別宅（ベッタク）

宀 4

【完】

7画 2016 5B8C 教4 音 カン 漢 訓 まった-し・まっと-うする

筆順 丶 丶 宀 宀 宀 宇 完

たちなり [形声]「宀（=いえ）」と、音「元（ゲン→カン）」とから成る。欠けたところがない。

意味 ❶すべてそなわっていて、欠けたところがない。まったい。例 完全（カンゼン）。完備（カンビ）。補完（ホカン）。❷そこなわないように保つ。まっとうする。例 完璧（カンペキ）。❸ものごとをなしとげる。すっかりできあがる。しおえる。例 完結（カンケツ）。完成（カンセイ）。未完（ミカン）。

人名 おさむ・さだ・たか・たもつ・とおる・ひろ・ひろし・まさる・また・まもる・みつ・みつる・ゆたか・よし

【完泳】カンエイ（名・する）目標の距離（キョリ）を、およぎきること。

【完結】カンケツ（名・する）（続いていたものが）すべて終わり、まとまること。類 完了（カンリョウ）。例 —編。ドラマが—する。

【完済】カンサイ（名・する）借りたものを（一部分ずつ返していって）すっかり返し終わること。例 借金を—する。

【完熟】カンジュク（名・する）果実や種子がじゅうぶんに生長しきること。例 —したトマト。

【完勝】カンショウ（名・する）戦いや試合で、悪いところが一つもないほど、相手をおさえきって勝つこと。類 大勝（タイショウ）・圧勝。対 完敗。例 チーム全員の活躍（カツヤク）で—した。

【完新世】カンシンセイ 地球の歴史で、地質時代新生代第四紀の後半の時代。約一万一七〇〇年前から現在までの期間。沖積世（チュウセキセイ）。

【完遂】カンスイ（名・する）計画などを完全にやりとげること。例 任務を—する。

【完成】カンセイ（名・する）ものごとができあがること。また、しあげること。類 成就（ジョウジュ）・完了（カンリョウ）。例 —度が高い。

【完全】カンゼン（名・形動ダ）必要な条件や要素が、すべてそろっている。欠点がないこと。類 完璧（カンペキ）・万全（バンゼン）。例 —装備。

【完全燃焼】カンゼンネンショウ（名・する）①酸素がじゅうぶん供給されて、ものが燃えつきること。②体力や気力を使いはたすことのたとえ。例 最後の試合で—する。

【完全無欠】カンゼンムケツ（名・形動ダ）不足や欠点がまったくないこと。〔「完全」をさらに強めていうことば〕

【完走】カンソウ（名・する）目標としていた距離（キョリ）を、最後まではしりぬくこと。例 初参加のマラソンで—した。

【完治】カンチ〔「カンジ」とも〕（名・する）病気やけがが、完全になおること。類 全治。

【完投】カントウ（名・する）野球で、投手として、一試合をひとりで投げ通すこと。例 —勝利。

【完納】カンノウ（名・する）おさめる決まりになっているものを、すべておさめること。類 全納。例 税金を—する。

【完敗】カンパイ（名・する）手も足も出ない状態で、圧倒（アットウ）されて負けること。対 完勝。例 決勝戦で—した。

【完備】カンビ（名・する）必要なものが、残らずそろっていること。対 不備。例 冷暖房（レイダンボウ）—。

3画

漢文を読む①

守㆑株（株を守る）

宋人有㆓耕㆑田者㆒。田中有㆑株。兎走触㆑株、折㆑頸而死。因釈㆓其耒㆒而守㆑株、冀㆓復得㆒㆑兎。兎不㆑可㆓復得㆒、而身為㆓宋国笑㆒。

〈韓非子（かんぴし）〉

書き下し文

宋人（そうひと）に田（た）を耕（たがや）す者（もの）有（あ）り。田（た）の中（なか）に株（かぶ）有（あ）り。兎（うさぎ）走（はし）りて株（かぶ）に触（ふ）れ、頸（くび）を折（お）りて死（し）す。因（よ）りて其（そ）の耒（すき）を釈（す）てて株（かぶ）を守（まも）り、復（ま）た兎（うさぎ）を得（え）んことを冀（こいねが）う。兎（うさぎ）復（ま）た得（う）べからずして、身（み）は宋国（そうこく）の笑（わら）いと為（な）る。

語釈

宋 春秋・戦国時代の国名。⇩【宋】ソウ 意味❶（318ページ）・〔東アジア地図〕（後見返し）

田 ここでは畑。⇩【田】デン 意味❶（736ページ）

株 木の切りかぶ。⇩【株】かぶ 意味❶（574ページ）

頸 くび。⇩【頸】ケイ 意味（1162ページ）

而 （助字）順接を表す。「…（し）て」と読むが、それを送り仮名として表すため、見かけ上、読まない文字（置き字）となる。⇩【而】ジ 意味❷㋐（882ページ）

因 あることにもとづいて。そこで。よって。⇩【因】イン 意味❷（237ページ）

釈 放りなげる。捨て去る。⇩【釈】シャク 意味❽（1087ページ）

耒 土をほりおこす農具。すき。⇩【耒】ライ 意味（883ページ）

守 みまもる。みはる。⇩【守】シュ 意味❶（314ページ）

冀 のぞむ。ねがう。⇩【冀】キ 意味❶（123ページ）

復 （助字）「また」と読み、ふたたび、の意を表す。⇩【復】フク 意味❻㋐（414ページ）

可 （助字）「べし」と読み、…できる、の意。⇩【可】カ 意味❸㋑（196ページ）

復 （助字）「不復」は「また…ず」と読み、二度と…しない、の意をあらわす。⇩【復】フク 意味❻㋑（414ページ）

現代日本語訳

宋国の人で畑を耕している者がいた。畑の中に木の切りかぶがあった。（ある時）ウサギが走ってきて切りかぶにぶつかり、くびの骨を折って死んだ。そこで持っていたすきを放り出して切りかぶを見張り、再びウサギを手に入れようと願った。（しかし）ウサギは二度と手に入れることができず、当人は宋国中の笑い者になった。

【完膚】(カンプ) 傷のない皮膚(フヒ)。外傷の何もない状態。

【完膚無(な)きまで】無傷のところがなくなるまで。徹底的(テッテイテキ)に。例―(に)相手を打ちのめす。

【完封】(カンプウ) (名・する) ①相手がまったく手出しのできないようにすること。②野球で、相手チームに最後まで得点(トクテン)をあたえないこと。例―勝ち。

【完璧】(カンペキ) 一「和氏(カシ)の璧(へキ)」(217ページ)・「連城の璧」(1061ページ)という宝玉(ホウギョク)を無傷のまま完全にしっかりと守り通した故事。璧を完(まっと)うす。二(名・形動ダ)(完全な璧の意から転じて)欠点がなく、みごとなこと。例―なできばえ。

故事のはなし

戦国時代、趙(チョウ)の恵文王(ケイブンオウ)が「和氏の璧」という宝玉を手に入れた。それを聞いた西方の強国、秦(シン)の昭王が、十五の都市と交換(コウカン)したいと申し入れてきた。軍事力のおとる趙としてはことわれず、かといって応じれば璧を取られるだけのおそれもある。交渉(コウショウ)役を引きうけた趙の藺相如(リンショウジョ)は、秦王と会見し、秦王に交換条件を守る意思がないのを見てとると、「その璧にはきずがあります」と言って、いったんわたした璧を取り返し、かみの毛が逆立って冠(かんむり)をつき上げるほどに怒(いか)り、璧を柱に投げつけて砕(くだ)いてしまうとおどした。五日の猶予(ユウヨ)を得た相如は、従者に璧を持たせて趙に帰してしまう。相如の死を覚悟(カクゴ)したふるまいに、秦王はあきらめて、彼を無事帰国させたのであった。〈史記(シキ)〉

【完本】(カンポン) ①複数の巻または冊から成る書物の、一巻または一冊も欠けずにそろっているもの。対欠本。②完全で、異版や異本の交じらない、また、落丁(ラクチョウ)や脱落(ダツラク)などのない書物。対零本(レイホン)・端本(はホン)。

【完訳】(カンヤク) (名・する) 外国語の文章や古典語の一作品を、すべて翻訳(ホンヤク)または現代語訳にすること。類全訳。

【完了】(カンリョウ) (名・する) すべて終わること。類終了・完結。対未了。例準備―。工事が―した。

●補完(ホカン)・未完(ミカン)

宀 4 【宏】 7画 2508 5B8F 人名 音 コウ(漢) 訓 ひろ-い

たなちり [形声]「宀(=いえ)」と、音「厷(コウ)」とから成る。へやがひろい。

意味 ❶場所やものごとの規模が大きい。ひろい。例宏壮(コウソウ)。宏大(コウダイ)。❷人間の度量が大きく、すぐれている。例宏度(コウド)。宏量(コウリョウ)。

表記 現代表記では、「広(コウ)」に書きかえることがある。熟語は「広」(382ページ)を参照。

人名 あつ・あつし・ひろ・ひろし・ひろむ・ふかし

【宏壮】(コウソウ) (名・形動ダ) 広々として、りっぱなこと。

【宏大】(コウダイ) (名・形動ダ) 広々としていること。対狭小(キョウショウ)。例―無辺。―な草原地帯。表記 現広大

【宏図】(コウト) 大きな計画。類鴻図(コウト)・洪図(コウト)。表記 現広図

【宏度】(コウド) 〔「度」は、度量の意〕心が広く、小さなことにこだわらないこと。類広量。表記 現広度

【宏量】(コウリョウ) (名・形動ダ) 〔「量」は、度量の意〕心が広く、人の失敗を必要以上にとがめないこと。対狭量(キョウリョウ)。例―な人がら。表記 現広量

宀 4 【宍】 7画 2821 5B8D 音 ジク(漢) ニク(呉) 訓 しし

意味 にく。例宍叢(ししむら)(=肉のかたまり。また、肉体)。

参考 「宍」と「肉」とは、もとは同じ形の字。

難読 宍人(ししひと)・宍村(ししむら)(=肉のかたまり)・宍粟(しそう)(=地名)・宍戸(ししど)(=姓(セイ))・宍道湖(しんじコ)

宀 4 【宋】 7画 3355 5B8B 人名 音 ソウ(漢) スウ(呉)

意味 ❶春秋・戦国時代の国。(?―前二八六) 例宋襄(ソウジョウ)の仁(ジン)。⇩[東アジア地図](後見返し) ❷南北朝時代の王朝。(四二〇―四七九) ❸唐(トウ)末の乱世を統一し、趙匡胤(チョウキョウイン)が建てた王朝。蒙古(モウコ)に興(おこ)った元(ゲン)にほろぼされた。(九六〇―一二七九)〔北方民族の金(キン)の侵入(シンニュウ)により河南(カナン)の開封(カイホウ)から江南(コウナン)の杭州(コウシュウ)に都をうつす(一一二七)までを北宋、それ以後を南宋という〕例宋学(ソウガク)。宋本(ソウホン)。入宋(ニッソウ)。

難読 呂宋(ルソン)

人名 おき・くに

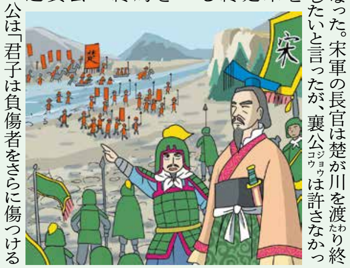
【宋音】(ソウオン) 宋から元(ゲン)の初めごろまでの中国語の発音が、日本に伝わって定着した漢字音。たとえば、「行灯(アンドン)」の「アン・ドン」、「塔頭(タッチュウ)」の「チュウ」など。唐音(トウオン)。唐宋音。

【宋学】(ソウガク) 宋代におこなわれた儒学(ジュガク)。朱子(シュシ)が大成した。字句の解釈(カイシャク)を主とした漢や唐(トウ)の学問に対し、哲学(テツガク)的に人間の本性(ホンショウ)を論じた。朱子学(シュシガク)。性理学。

【宋▼襄の仁】(ソウジョウのジン) 不必要な情けをかけたため、かえって損をすること。

故事のはなし

春秋時代、宋(ソウ)は楚(ソ)と泓水(オウスイ)のほとりで戦うことになった。宋軍の長官は楚が川を渡(わた)り終える前に攻撃したいと言ったが、襄公(ジョウコウ)は許さなかった。楚軍は川を渡り終えた。宋軍の長官は楚が布陣(フジン)を終える前に攻撃したいと言ったが、また襄公は許さなかった。結局宋は、布陣が終わった楚と戦って大敗し、襄公自身も傷を負った。責任を追及(ツイキュウ)された襄公は「君子は負傷者をさらに傷つける



ことはせず、また老人を捕虜(ホリョ)にしたりはしない。古の戦いでは難儀(ナンギ)に陥(おちい)っている敵に攻撃をしかけることもしなかった。私も布陣が終わっていない敵を攻撃したりはしない」と弁解したが、敵に対して無用な仁愛(ジンアイ)をかけ、戦(いくさ)を知らぬものだと批判された。〈春秋左氏伝(シュンジュウサシデン)〉

【宋朝】(ソウチョウ) ①宋の王朝。②「宋朝体」の略。宋代の版本の書体にもとづく、たて長で細い楷書(カイショ)体。

宀 5 【宛】 8画 1624 5B9B 常用 音 エン(漢) 訓 あ-てる・あたか-も・あ-て・ずつ

筆順 丶 丶 宀 … 宛

たなちり [形声]「宀(=いえ)」と、音「夗(エン)」とから成る。草を曲げて、身を覆う。

意味 ❶まげる。まがる。かがむ。ころぶ。例宛転(エンテン)。❷さながら。ちょうど。まるで。あたかも。例宛然(エンゼン)。

日本語での用法 一《あて・あてる》あてはめる。また、手紙や荷物などの送り先を示す。「宛(あ)て字(ジ)・宛(あ)て名(な)」 二《ずつ》わりあて。…ずつ。「一(ひと)つ宛(ずつ)片付(かたづ)ける・二個宛(ニコずつ)食(た)べる」

使い分け あてる【当・充・宛】⇩1261ページ

【宛て先】(あてさき) 手紙や書類や荷物などの、受取人の住所氏名。類宛(あ)て名(な)。

【宛て名】(あてな) 手紙や書類などの、受取人の氏名。例―をたずねておく。

【▽宛然】(エンゼン) (形動タル) ちょうどそれ自身のようであるようす。そっくりであるようす。例―として落花のごとし。

【▽宛転】(エンテン) (形動タル) ①ゆるやかにまがっているようす。②〔美人のまゆの形容で〕顔だちが美しいようす。例―たる蛾眉(ガビ)。③ことばや声がよどみないようす。

宀 5 【官】 8画 2017 5B98 教4 音 カン(漢)(呉) 訓 つかさ

筆順 丶 丶 宀 … 官

たなちり [会意]「宀(=おおう)」と「𠂤(=多い)」とから成る。君主につかえ、多くの人々をおさめる役人。

意味 ❶役人。または役職。役目。つかさ。例官位(カンイ)。官職(カンショク)。教官(キョウカン)。❷国家の役所。政府。朝廷(チョウテイ)。例官学(カンガク)。官権(カンケン)。官庁(カンチョウ)。❸生物体のさまざまなはたらきをする部分。例官能(カンノウ)。器官(キカン)。五官(ゴカン)。

難読 判官(ホウガン・ジョウ)

人名 おさ・おさむ・きみ・これ・たか・ひろ・ひろし

【官位】(カンイ) ①官職と位階。位官。例―をたまわる。②役人の職務の等級。官等。官階。例高い―につく。

【官印】(カンイン) 政府の印。また、役所で使う公式の印。類公印。対私印。

【官員】(カンイン) 官職にある人。役人。類官吏(カンリ)。

【官営】(カンエイ) 政府が経営すること。国営。官業。対私営・民営。例明治時代前期の近代工業は、ほとんどが―事業だった。

【官▼衙】(カンガ) 〔「衙」は、役所の意〕役所。官庁。

【官界】(カンカイ) 役人たちがかたちづくる社会。類官海・官場(カンジョウ)。例―出身の代議士。

【官学】(カンガク) ①国が運営する学校。国立大学など。対私学。②国が正しいと認めた学問。江戸(えど)時代の朱子学(シュシガク)など。

【官紀】(カンキ) 役所の規則。役人が守るべき規律。類官法。例―粛正(シュクセイ)。

【官許】(カンキョ) (名・する) 政府から民間の団体や個人にあたえる許可。公許。

【官業】(カンギョウ) 政府が管理し、また経営する事業。官営。

【官金】(カンキン) 政府や官庁が所有するお金。公金。

【官軍】(カングン) 幕末や明治維新(イシン)の争乱、また西南(セイナン)戦争での、政府側の軍隊。国軍。対賊軍(ゾクグン)。例勝(か)てば―(=勝ちさえすれば、正統で大義(タイギ)のあるものとみとめられること)。

【官権】(カンケン) 政府や官庁、また役人の権力と権限。国家権力。例―を発動する。

【官憲】(カンケン) 役所。役人。とくに警察官や検察官のこと。例―の手がはいる。

【官公庁】(カンコウチョウ) 政府の役所としての官庁と、地方公共団体の役所としての公庁。

【官舎】(カンシャ) ①政府や地方公共団体が建て、公務員に貸す住宅。公舎。②役所。③旅館。旅舎。

【官需】(カンジュ) 政府の需要。また、その物資。対民需。

【官女】(カンジョ・カンニョ) 宮中につかえる女性。女官(ニョカン)。

【官省】(カンショウ) ①中央官庁。内閣の各省。②律令制(リツリョウセイ)の太政官(ダイジョウカン)と、その八省。

【官職】(カンショク) 公務員としての地位と職務。例―につく。

【官制】(カンセイ) 国の行政機関についての決まり。組織・名称(メイショウ)・権限・役人の人数などの規則。例―を見直す。

【官製】(カンセイ) 政府がつくること。また、つくったもの。対私製。

【官選】(カンセン) 政府でえらぶこと。また、えらんだもの。類国選・公選。

【官庁】(カンチョウ) ①国の事務を取りあつかうところ。各省や都道府県庁など。役所。官署。〔司法官庁・行政官庁の区別があり、さらに中央官庁・地方官庁の区別もある〕例―街。②太政官(ダイジョウカン)の役所。太政官庁。

【官邸】(カンテイ) 国が大臣や長官に、その公的な職務のために使用を許す邸宅。公邸。対私邸。例総理大臣―。

【官途】(カント) ①仕官の道。役人になる道。②役人の仕事や地位。例―につく(=役人になる)。

【官等】(カントウ) 役人としての身分をあらわす等級。官階。官位。官級。例―の昇進(ショウシン)を望む者。

【官能】(カンノウ) ①目や耳などの感覚器官のはたらき。例―障害。②肉体的なこころよさを得る感覚。

【官費】(カンピ) 政府から出る費用。国費。類公費。対私費。例―留学。

【官房】(カンボウ) 大臣や長官のすぐ下で、政府や省庁の重要な事務をおこなう機関。例内閣―。

【官報】(カンポウ) 政府が国民に知らせることがらを編集し、毎日発行する文書。

【官民】(カンミン) 政府と民間。役人と民間人。例―一体となる。

【官名】(カンメイ) 役人の役職名。例―を詐称(サショウ)する。

【官命】(カンメイ) 政府や役所の命令。例―による出張。

【官有】(カンユウ) 政府が持っていること。国有。例―地。

【官吏】(カンリ) 役人。官員。公務員。例―の服務紀律。

【官立】(カンリツ) 政府が設立したこと。また、そのもの。国立。